

4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

- 学校の教育目標「自ら学び、豊かな心とたくましく生き抜く力をもち、ふるさとを愛する児童の育成」
- めざす児童像「自ら進んで学ぶ子」「礼儀正しくやさしい子」「心身ともにたくましい子」
- めざす学校像「落ち着きのある学校」「安心・安全な学校」「美しい学校」
- めざす教師像「分かる授業を行う教師」「人間性豊かな教師」「覇気のある教師」

<学校経営ビジョン> 生きる力を育むために、「学ぶ楽しさを知り、自ら進んで実践する教育」を学校経営の基調とし、小規模校の特性を生かした個に応じた指導の充実及び社会性を育てるための集団活動の充実を通して、人間力あふれる子どもの育成に努める。

重点目標	具体的目標	方策・手立て	評定	自己評価結果(成果と課題)
1 学力向上 <知育> 	<p>1 個に応じた指導・複式指導の充実を図り、「学び合い」を意識しながら、児童が「分かる・できる」授業を目指す。</p> <p>2 読書活動充実に向けての様々な取組を通して読書意欲を高め、読む力の向上を図る。</p> <p>3 高崎ブロック小中一貫教育を基盤に各家庭と連携した取組を充実させ、児童の学習習慣の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業力向上に向けて、校内研究を「学び合い」を意識した授業研究に絞り込み、児童全員が「分かる・できる」授業を目指す。 ○ 朝の活動やぐんぐんタイム、Webの日を有効に活用して学力の定着を図る。 ○ 読み聞かせ(図書館センター・すきのこ俱楽部、教師)の機会を多くもつことで本の楽しさを感じさせる。 ○ 学校図書館やくれよん号の利用を促進し、読書意欲を高める。また、「ファミリー読書カード」を活用し、家庭での読書の推進を図る。 ○ 高崎地区6校で作成した「家庭でつくる8つの習慣」を活用し、家庭学習の習慣化を図る。 ○ 学級担任による家庭学習の見届け・励ましを積み重ねることで、児童の家庭学習への意欲を高める。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1人1研究授業を行い、「学び合い」を通して児童が「分かる・できる」授業を目指して授業改善に取り組んできた。複式学級においては、「タイムプランボード」を活用し、間接指導の充実も図ってきた。 △ マンパワーが足りず、学力の定着を図るための活動の充実が図れているとは言い難い。地域の力をお借りしたい。 ○ 読み聞かせについては、コロナ禍のため外部の人材を招くことは難しかった。図書館センターには毎週金曜日給食時間に多彩なジャンルの読み聞かせをしていただき、子どもたちの本への興味が高まった。 △ 校内での読書量は昨年度とほとんど変わっていないか微減。もとと児童の読書意欲をかき立てる取り組みを行っていくことが必要。家庭での読書量も減少傾向であり、対策を講じる必要がある。 ○ 高崎中学校のテスト期間に合わせて「家庭学習がんばり週間」を設定し、家庭の協力をいたさながらメディアコントロール等の生活リズム獲得の取組を行った。 ○ コロナ禍による休業期間中も、学級担任がプリント等を作成し家庭学習の充実を図った。見届けまで行ったが、これが担任の過度の負担となっている面もある。
2 豊かな心の育成 <德育> 	<p>1 道徳教育・人権教育・特別支援教育等の授業や取組を通して、人の心の痛みが分かるやさしい心を育む。</p> <p>2 全職員が一貫した常時指導を通して、「元気なあいさつ・返事」のできる児童100%を目指す。</p> <p>3 いじめ解決・不登校ゼロの100%を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の時間の指導方法の工夫・改善を図りながら、学校教育全体を通して、豊かな心の育成を図る。 ○ 参観日に道徳の授業を公開することで、授業の充実を目指し、保護者の理解を深める。 ○ 高崎地区人権教育研修会に参加し、人権教育に関する講演を通して人権感覚を磨く。 ○ 毎朝の校長室前での挨拶指導を通して、気持ちのよい挨拶の仕方を身に付けてさせるとともに、児童一人一人を励ます機会とする。 ○ 「がんばるなわぜっこ」を常設することで、意識付けを図る。 ○ 特別支援教育コーディネーターを中心に関係機関とも連携しながら、個別の指導計画を立て、個に応じた指導の充実を図る。 ○ 日頃の観察・ふれあいを通して、子どもに寄り添う声かけを行う。 ○ 毎月いじめアンケートや教育相談を実施し、いじめの兆候を見逃さず素早い対応を行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 12月の参観日に全校一斉の道徳の授業公開を行い、新たに「特別の教科 道徳」となった道徳教育に対する保護者への理解を深めさせた。 △ コロナ禍の中、校外での研修会等への参加は難しかった。 ○ 交流活動も制限される中、唯一開催することができた収穫祭での感謝集会で、お世話になっている地域の高齢者の方々へ感謝の意を伝えられたことは、児童の今後の意欲付けにもなった。 ○ 児童アンケートによると高学年ほど「元気よく進んで挨拶をしている」と答えた児童が多い。日常の児童の様子を見ても感じることである。ただ、保護者の評価は低く、家庭や地域でのあいさつには課題がありそうである。 ○ 児童や保護者へのアンケート→教育相談→全職員での共通理解・協議(対応検討)という流れがしっかりとでき、いじめの芽が小さいうちの摘むことができている。しかし、「いじめはどの学校でも起こる」という認識のもと、児童の小さな変化を見逃さないようにしていきたい。 ○ 配慮の必要な児童に対する指導に関しては、エリヤコーディネーターを招聘したりして、対応を検討してきた。今後も関係機関との連携をさらに密にしながら、児童の困り感に寄り添っていきたい。
3 健康でたくましい体の育成 <体育> 	<p>1 生活リズムの定着に向けて、適切な働きかけを行うことで、全校児童欠席0の日、年間100日を目指す。また、日常的に立腰指導の充実を図り、粘り強い心身を育む。</p> <p>2 児童が主体的に運動に親しみ体力の向上につながるように、体力向上プランを活用した取組を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭との連携を図りながら、食に関する指導を柱に生活リズムの定着に向けて指導の工夫を行う。 ○ 2ヶ月に1回の立腰指導の日には体育館で一斉指導を行うことで、定着を図る。 ○ 手洗い・うがいなどの徹底指導を行い、病気の予防に努めさせる。 ○ 持久走月間、縄跳び月間を設け、体力を高める。 ○ 毎日の体育の時間に必ず5分間走などをを行い、力をつける。 ○ 体力テストを年間2回実施し、その結果と活用を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校保健委員会や長期休業中のヘルスチャレンジ等により、家庭への啓発活動は活発に行われている。家庭での生活リズムも定着している。 ○ 立腰指導に関しては、学習中の姿勢が崩れる児童が低学年ほど目立つ傾向がある。逆に高学年の姿勢はとても美しい。継続することで身につくものがあるので、今後も立腰指導を継続して適宜声掛けを行っていきたい。 ○ コロナ禍にあって、手洗い・うがいは休み時間ごとに行うことができている。欠席も少なく、欠席0の日は120日を超えていている。 ○ コロナの影響もあり、縄跳び運動は十分に行なうことができなかったが、持久走や体育の時間の5分間走などは実施することができ、体力向上に向けた取り組みができた。 △ 体力テストを実施することができなかった。児童の体力の状態を把握することは大事なことなので、来年度実施方法を工夫して実施したい。
4 家庭・地域との連携	<p>1 学校便り・ホームページ等を通して、情報を公開するとともに、地域の行事や会議等に積極的に参加する。</p> <p>2 学校運営協議会と連携を深めながら、ふるさと教育を充実させ、地域とともに学校づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戦没者慰靈祭、菅原神社祭り、合同運動会、高崎地区駅伝大会、挨拶運動など、地域の方々との交流を通して、連携を強化する。 ○ オープンスクールを地域にも案内することで、教育活動に興味・関心をもっていただく。 ○ 学校だより、ホームページを充実する。 ○ 学校運営協議会の定期的な開催と学校運営方針をしっかりと伝え協力を依頼することで、ふるさと教育及び学校づくりの充実に努める。 	3	<ul style="list-style-type: none"> △ コロナウイルス感染拡大防止のため、地区での各種行事は中止となり、児童の参加も見送られた。地区との合同運動会も実施することができなかった。オープンスクールも実施することはできなかった。交流の機会が減ったことで、地域との連携が薄れてしまった感があるが、感染が収束した折に再開できるよう準備を怠りたくない。 ○ 唯一実施することができた田植え・稲刈り、その後の収穫祭では地域の高齢者の代表の方にもお越しいただくことができた。 ○ 学校だよりは発行できたが、ホームページの更新が滞っているので、更新していきたい。 ○ 学校運営協議会は、コロナ禍の中ではあったが予定していた回数実施することができた。貴重な意見もいただきました。いただいた意見を次年度の教育課程編成に生かしていきたい。